

臨時の仮屋から常設の小屋へ

—山形県小国町大宮のコヤバから—

板橋 春夫 氏 日本工業大学建築学部 教授

日時:2021年9月15日(水)17:30~19:00

会場:Zoomミーティング 【開場:17:15】

申込方法: 9月13日(月)12:00までに、ご氏名とご所属を明記し、jomin-kenkyukai@kanagawa-u.ac.jpまでメールをお送りください。追って参加ID/PWを送信いたします。

臨時の仮屋から常設の小屋へ

—山形県小国町大宮のコヤバから—

日本の産屋習俗は1960年代に終焉を迎えた。出産の医療化はそれを加速させたが、伝統的習俗を継続する地域もあった。山形県小国町大宮のコヤバはその一つである。産屋は、臨時の仮屋から常設の小屋に変化したとされる。その通説は、別地域の事例をつなぎ合わせた仮説であり、一地域における変遷過程から立証したものではない。大宮のコヤバはその変遷過程を裏付けられる稀有な事例であった。本報告は、コヤバ利用者からの聞き書き資料と文献資料を活用しながら、東日本に唯一残る産屋の実態を紹介する。